



大宮20景

歴史と天然記念物が いっぱいの普門院

平成18年に市民が選定した「大宮二十景」の第6弾は「大成山普門院」です。
まっすぐな参道を進むと、「大成山」の揮毫が掲げられている山門が見えてきます。
入口には、禅宗なので、「不許葷酒入山門」（葷酒※1山門に入るを許さず）の文字が…。大丈夫、昨日はお酒を飲んでいないので、なかに入れます。
今回は、寺務所※2に向かい「第四十四世大徳道彦」住職に、お話を聞きました。

大宮 まじり 新聞

Vol.006
2021年3月5日発行
OMIYA LIBRARY

「こちらのお寺は歴史があると伺っています。」

はい。室町時代に、氷川神社の岩井宮司が夢枕で、門にいる高僧月江正文和尚にこの地にとどまって布教を頼むと良いといわれました。領主の金子駿河守大成公に相談し、金子家の屋敷をお寺にしたのが普門院のはじまりとされています。

「著名な方のお墓がありますよね。」

江戸時代に大成領主だった旗本小栗忠政一族のお墓や、世界で最初に実用的胃カメラを考案した宇治達郎先生、元大宮市長の新藤先生をはじめ、地元で有名な方々のお墓があります。

「宇治先生は「プロジェクトX」にもとりあげられている方ですね。」

いろいろな天然記念物も有名だとか。そうですね。伽羅やタラヨウ、ベニシダレは市指定天然記念物です。樹木医に見てもらうなどして大切に守っています。参道には、河津桜、ソメイヨシノ、八重桜があり春は見頃です。

「鳥の声が聞こえてきますね。」

はい。野鳥がよく遊びにきます。メジロやホオジロ、シジュウカラ、ムクドリ、ヒヨドリ、オナガ、たまにウグイスも来て鳴いてくれます。



「お隣の普門院幼稚園の子どもたちの可愛らしい声も聞こえてきました。」

昭和24年に開園しました。大勢の子ども達でいつも賑わっています。

「新型コロナの影響はありますか。」

そうですね。幼稚園は自粛期間もあり特に影響がありました。お寺の方も法事が無くなったりました。

「これからいらっしゃる方に向けて一言お願いします。」

春は桜が見ごろを迎えますので気楽に来ていただければと思います。

「ありがとうございます。」

本堂前には伽羅や梅、百日紅が枝を伸ばしています。

お墓の奥には、永代供養塔と樹木葬の場所もあり、昔からある太い樹木が立っています。北側の庭には竹林があり、それぞれの季節ごとに普門院の風景に彩りを添えます。

普門院と有縁の文学者として、井伏鱒二がおり、第四十二世和尚をモデルにした、「普門院さん」という小説を発表しています。他にも中里介山や、徳富蘇峰とも交流があったとか。彼らの本を片手に訪れてみてはいかがでしょうか。

参考資料
『プロジェクトX挑戦者たち 1 執念の逆転劇』NHKプロジェクトX制作班/編
日本放送出版協会/2000
『井伏鱒二全集 第4巻』井伏鱒二/著
筑摩書房/1996

※1 葷酒：葷(ネギ・ニラなど臭いの強い野菜)と酒
※2 寺務所：寺務を取り扱う所
『広辞苑 第7版』R813.1 岩波書店



「寺田寅彦 随筆「写生紀行」より」

大宮公園の前身である氷川公園には風情ある景色を求め、多くの著名人たちが訪れています。「天災は忘れたころにやってくる」の名言で有名な物理学者であり、随筆家でもある寺田寅彦もその一人です。
雑誌「中央公論」1922(大正11)年1月号に「吉村冬彦」の筆名(ペンネーム)で発表された随筆「写生紀行」では、趣味の絵を描くために大宮を訪れた時のことを次のように書いています。
「十月十五日。朝あまり天気が朗らかであったので急に思い立って出かける事にした。このあいだM君と会った時、いつかいっしょに大宮へでも行ってみようかという話をした事を思い出して、とにかく大宮まで行ってみることにした。」
寅彦は公園の中の旗亭(大きな料亭や旅館ではなく、いくつかまとまり、店の前に旗を立てている料理屋)の一つで昼食を取りますが、ここで、公園の拡張計画があり、立ち退きを迫られるかもしれないという話を聞いたそうです。「女中の話を聞くと、せんだってなんとかという博士がこの公園を見に来て、これはたいへんいい所だからこの形を保存しなければいけないという事」、これは1921(大正10)年の本多静六博士らによる公園改良計画を指しています。
その後も絵を描く場所を求め、あちこち公園内を散歩しますが、結局絵を描いたのは公園内ではなく、近くのさつまいも畑でした。日が傾くまで熱心に描いていたようです。
寅彦のように絵を描いてみるのは難しいという人でも、天気がいい日にはとっておきの一枚の写真を撮りに大宮公園を散歩してみるのもいいかもしれません。

参考資料
『寺田寅彦随筆集 第一巻』寺田寅彦/著
小宮豊隆/編 岩波書店/1992
『寺田寅彦 1978-1935 ちくま日本文学 034』
寺田寅彦/著 筑摩書房 2009
『大宮の郷土史 第38号』
大宮郷土史研究会/編 2019

大西民子の一首

遠き雲の地図を探さむこの町を のがれむといふ妹のため

『雲の地図』より

妹・佐代子は民子の方が好きでした。大宮に住むようになってから来客が多く、休みの日も姉を独占できないのが不満で、「人の来ない所へ引っ越ししようよ」と、佐代子は言い続けていたそうです。

tashostagram

トショスタグラム

誰かに見られている気がする…。

#大宮さんぽ
#氷川参道
#一の鳥居
#モナ・リザの視線!

「燃えて萌える『水滸伝』」



夢で出会った運命の加を石つぶてで射止めます



「キャラ萌え」——創作のキャラクターに対して萌え（非強いい好意的感情）を感じることを。

誰しも1人は「萌え」るキャラがいるはずである。いるよね？

私にはいる。例えば、今日紹介する瓊英（ケイエイ）もその一人。中国四大奇書の一つ『水滸伝』に登場する、数奇な運命をたどった少女である。

『水滸伝』を雑に紹介すると、「悪人たちが暴れまわる話」だ。悪人と言っても、善意が裏目に出て道を踏み外したような人から、「趣味…殺人」という直球のド悪党まで様々。悪の見本市といった有様である。

瓊英は、百二十回本（100回完結の『水滸伝』に新たなエピソードを追加したもの）にのみ登場する女傑である。花も恥じらう16歳、絶世の美貌を持ち武芸も抜群。一方、暗い過去を背負った悲劇のヒロインという一面もある。両親を殺した賊に養女として育てられ、表向きは従いつつも密かに復讐の機会を狙っている……。

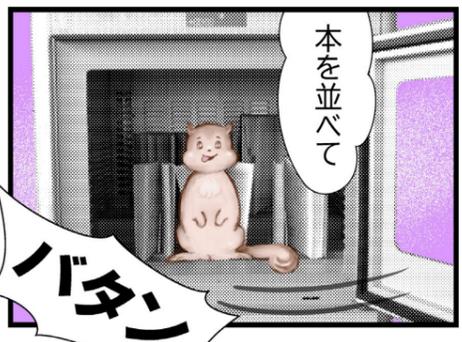
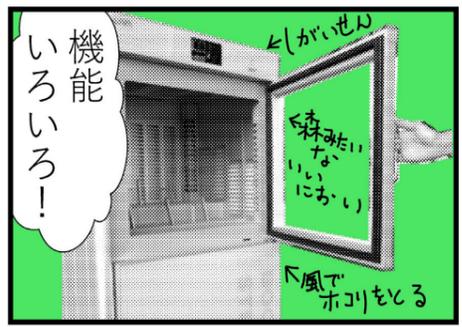
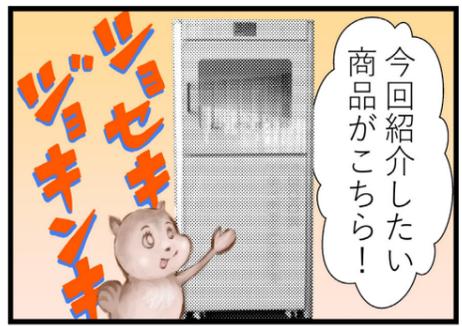
設定盛りすぎである。そんな彼女は、ある日、見知らぬ青年から石つぶて投げの技を伝授される夢を見る。

夢の青年に心惹かれつつ日々を過ごしていたある日、その青年が現実で現れて……。彼女の復讐が如何なる結末を迎えるか、この先は皆様自身で確かめて頂きたい。

瓊英に限らず、全体的に『水滸伝』のキャラはクセが強い。悪党だけに、一筋縄ではいかない奴らばかり。だからこそ「萌える」のである。あなたの「キャラ萌え」がきつと見つかる、中国古典『水滸伝』。ぜひ一読を。

参考資料
『水滸伝』施耐庵／著 駒田信二／訳
筑摩書房／2005 全8巻

書籍を除菌する機械です



※本じゃないものは入れないでね！

図書館の近所さん

今回紹介する本は近所さんのおすすめ本ではなく筆者（図書館スタッフS）の思い入れのある一冊。

10代の頃に地元小さな図書館で見つけて、白粉を塗った着物に髪姿に衝撃を受けたのです。街中でチンドン屋さんを見たことは一度もないのですが、この白黒の写真集から華々しい色合いにぎやかな楽器と口上の重なりを確かに感じました。月日が経って自分が図書館員となりチンドン屋さんと仕事をする時が来るとは、当時は思ってもいませんでした。

かつては商店街や駅前を練り歩いていたチンドン屋さん。そばを通った方が「昔はよく後をついていったものよ」と懐かしそうに眺めてらっしゃるのが印象的でした。

団長の響さんは普段本を見ながらサクサクの勉強をされているのとか。

紹介した本
『ちんどん屋—網島徹写真集—』
網島徹／著 国書刊行会



チンドン屋youさんのお二人

わたしの好きなえほん



『あかちゃんがわらうから』
おーなり由子／著
ブロンズ新社／2014

「かあさんはときどきよわくなる かなしいニュースをみるたびに 世界はどしゃぶりのように感じられ 未来はどこまでも いろいろの雲でいっぱい」
言い知れぬ不安のなかで立ちすくむお母さん。そんな時、腕の中の赤ちゃんが教えてくれます。

「うれしいこと ここにあるよ」
少し大きくなった赤ちゃんたちは、野原を駆け回りながら叫びます。

「ぼくらを よわいときめつけないでよ」
光の中で輝くような子どもたちの笑顔。子育ての不安や心配に大丈夫、と言ってってくれるようにです。

腕の中に大切なものを抱え込む大人になつてしまった私たちは、それを守ろうと一心不乱になるあまり、不安ばかり大きくなってしまふ。けれど、きっと大丈夫。

新型コロナウイルス感染症のため一変した私たちの日常ですが、こんなふうな毎日を駆け抜けていきたいですね。

私たちの嬉しいことは「ここにあるよ」という赤ちゃんの、子どもたちの力強い言葉がほっとして、勇気の出る一冊です。

朗読CD 『向田邦子作品集』

昭和を代表する女流作家といえば、「向田邦子」の名を思い出される方も多いのではないのでしょうか。向田邦子は映画雑誌の編集者から出発し、ラジオやテレビドラマの脚本家を経て、エッセイや小説の世界にもその活躍の場を広げました。文章を書く者にとって、上達のために、彼女の短編を原稿用紙に書き写してみることが勉強になると言われたほどです。大宮図書館ではその朗読CDを数点所蔵しています。『男どき女どき』『思い出トランプ』『父の詫び状』など珠玉の名作を岸田今日子の朗読で味わうことができます。1枚のCDに1～3作品が約1時間ほどで収録されています。そのほかにもいろいろな作家の朗読CDも所蔵しています。CDコーナーの分類430の棚へどうぞ。活字だけではない図書館の世界でお待ちしています。



読書バトン

第5回 テーマ『遺産』

世界遺産マチュピチュを訪れようとした日本人男性が、ふもとの町に7か月間足止めされたのち、特別に観光を認められたというニュースをご存じでしょうか。昨年3月、マチュピチュを目前にしなが、ペルー政府の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令の為に外出が禁止され、観光どころか町からの移動さえ簡単にできなくなつてしまつたそうです。その間、現地の方々と深い交流をもち、すっかり馴染んだ男性は、地元紙で紹介されてペルー政府の目に留まり、ただ一人、遺跡訪問が実現したのです。

私も世界遺産が大好きで、海外にあるいくつかの世界遺産を訪れていますが、南米ペルーは遠くに行くことができません、憧れの場所となつていました。その景色を独占できるなんて本当に羨ましいです。自分もいつかは行って見たい。でもお金も時間もない……。

『1冊でわかる すべて見える世界遺産』では、日本を始め世界中の有名な世界遺産が紹介されています。マチュピチュのページでは精巧な石積みもよく分かります。実際にこの目で見た気分になれます。

フランスの「ヴェルサイユ宮殿とその庭園」も個人的には憧れの場所の一つです。豪華絢爛な内部の様子を見てみると、子供の頃に読んだ漫画を思い出してますます妄想が広がってしまいます。

今はなかなか旅行に行けないので本を読んで気持ちだけ旅をする日々です。さて、次はどこへ行くのか……。

次回のテーマは「妄想」です。



紹介した本
『1冊でわかる すべて見える世界遺産』
—今まで見えなかった細部まで空撮で紹介—
ロム・インターナショナル／編
成美堂出版／2012
紹介者：クラウジア